



## クウェート国

State of Kuwait

2007年10月現在



### 一般事情

- 1.面積 17,818平方キロメートル(四国とほぼ同じ)
- 2.人口 299万人(内クウェート人99万人(全体の33%))(2005年末)
- 3.首都 クウェート
- 4.民族 アラブ人
- 5.言語 アラビア語
- 6.宗教 イスラム教
- 7.国祭日 2月25日(第11代アブダッラー首長即位記念日)
- 8.通貨 クウェート・ディナール(KD)  
為替レート 1KD = 3.47米ドル(2006年平均)  
補助通貨単位 1,000フィル = FIL/S

### 9.査証(ビザ)

- 10.在留邦人数 180人(2006年10月現在)
- 11.在日当該国人数 -
- 12.電源 - V - Hz
- 13.国際電話 国番号 965 国際通話コード 0
- 14.シガレット 小売価格 - US\$ (20本当り)  
税率 - %  
製造数量 - (百万本/年)  
シガレットメーカー **No Cigarette Manufacturers in this Country**

- 15.略史 16世紀にヨーロッパ列強が湾岸地域へ進出するようになりクウェートの存在が知られるようになった。  
18世紀アラビア半島中央部から移住した部族がクウェートの基礎をつくった。  
1899年英国の保護国となる。1938年に大油田が発見され、1961年6月19日英国から独立。

### 16.在外大使館・領事館

在クウェート日本国大使館  
Embassy of Japan in the State of Kuwait  
Jabriyah, Area 9, Plot 496, Street 101  
(P.O.Box 2304, Safat, 13024, Kuwait)  
Tel (+965) 531 - 2870 Fax (+965) 532 - 6168

### 17.駐日大使館・領事館

クウェート国大使館  
Embassy of the State of Kuwait in Japan  
〒108-0073 港区三田4丁目13-12  
電話:03-3455-0361

### 政治体制・内政

- 1.政体 首長制
- 2.元首 シェイク・サバーハ・アル・アハマド・アル・ジャービル・アル・サバーハ首長殿下  
(H.H. Sheikh Sabah Al Ahmad Al Jaber Al Sabah) (2006年1月29日即位)
- 3.議会 国民議会(一院制、定員50名、任期4年)
- 4.政府 (1)首相:シェイク・ナーセル・ムハンマド・アル・アハマド・アル・サバーハ  
(2)外相:シェイク・ムハンマド・サバーハ・アル・サーレム・アル・サバーハ
- 5.内政 (1)クウェートは過去2世紀にわたりサバーハ首長家が統治。  
1961年6月19日の独立後も同家内より選ばれた首長を元首としている点に変わりはないが、  
1962年に制定された憲法に基づき、国民議会が開設され、首長、国民議会、内閣の三者を中心とした統治形態がとられるようになった。  
(2)1990年8月のイラクの侵攻により約7ヵ月間占領されたが、1991年2月末解放。  
2003年7月、4年に1度の国民議会選挙が実施され、右に伴い新内閣が発足した。  
2005年5月、女性に参政権が認められ、同年6月初の女性閣僚が誕生した。

### 外交・国防

#### 1.外交基本方針

- (1)西側先進国との良好な関係を維持すると共に、GCC諸国との協力の推進、アラブ諸国との連帯を外交の主要な柱とする。
- (2)1990年8月のイラクの侵攻後、1991年2月の解放を経て、西側寄りの外交政策傾向が強まり、米(1991年9月)、英(1992年2月)、仏(1992年8月)、ロシア(1993年11月)それぞれとの間で防衛取極を締結。  
又、1995年3月中国との間で軍事協力に関する覚書に調印。
- (3)イラクの安定はクウェートの安定との認識の下、サッダーム・フセイン政権崩壊後のイラクとの良好な関係構築を最重要課題としている。

#### 2.軍事力

- (1)支出 44億ドル(2005年)
- (2)兵役 2年間(但し大卒以上の資格者は1年間)
- (3)兵力 15,500人(陸11,000人、海2,000人、空2,500人) 予備役 23,700人

## 経済

1. 主要産業 石油 原油確認埋蔵量 1,015億バレル(2005年末現在)、世界第4位可採年数 108年  
石油生産量 257.3万B/D  
(旧中立地帯埋蔵・生産量の2分の1を含む)
2. GDP 約800億ドル(2005年)
3. 一人当たりGDP 27,017ドル(2005年)
4. 実質経済成長率 10.0%(2005年、クウェート中央銀行)
5. 消費者物価上昇率 4.1%(2005年、クウェート中央銀行)
6. 失業率 4.4%(2005年、クウェート計画省)
7. 貿易額(2005年)(単位:億ドル、クウェート計画省)  
輸出:449  
輸入:175
8. 主要貿易品目  
(1)輸出 石油、石油製品  
(2)輸入 車両、電気機器、機械類
9. 主要貿易相手国  
(1)輸出 日、韓、米、シンガポール、蘭(2004年)  
(2)輸入 米、独、日、英、サウジアラビア(2004年)
10. 通貨 クウェート・ディナール(KD)
11. 為替レート 1KD = 3.47米ドル(2006年平均)
12. 経済概況  
(1) 経済構造は、石油部門を中心とするモノカルチャー。国民の94%が国家公務員又は国营企業に勤める。  
(2) 石油収入による国内工業化は石油関連部門に集中し、その豊富なオイル・マネーを海外での投資に向けることによる金融立国を指向するとともに、国内の失業率上昇等を背景に産業の多角化を図っている。  
(3) 産業多角化を目指して、外国資本投資法が2001年に可決。  
(4) 2003年のイラク戦争終結と共に、イラクへの物流基地としての役割が復活。

## 経済協力

1. 我が国の援助実績  
(1998年度末までの累計。1999年度よりODA非対象国となり、ODAによる協力は行われていない。)  
(1) 有償資金協力 なし  
(2) 無償資金協力 2.94億円  
(1988年度、災害緊急援助 安全航行援助施設設置協力 )  
(3) 技術協力実績 9.35億円  
(研修生受入れ203人、専門家派遣35人、機材供与4,360万円 1998年度までの累計 )
2. 主要援助国(1997年)  
(1) フランス(30万ドル、60%) (2) ドイツ(10万ドル、20%) (3) 日本

## 二国間関係

1. 政治関係  
1961年、クウェートの独立を承認。1963年、大使館を設置。クウェートは1962年に在京大使館を開設。
2. 経済関係  
(1) 対クウェート貿易  
(イ) 貿易額(2005年 百万ドル、IMF)  
対日輸出 6,934  
対日輸入 1,296  
(ロ) 主要品目  
対日輸出 原油、石油製品  
対日輸入 機械、金属品、繊維製品  
(ハ) 原油の対クウェート輸入量  
36万B/D(2006年・我が国総輸入量の8.2%第5位)
- (2) 我が国からの直接投資  
1999年度から2006年度迄の累計:11件 約7億円
3. 文化関係  
2001年から2002年2月までの期間、日・クウェート外交関係樹立40周年記念として記念レセプション、日本文化紹介事業各種が開催された。
4. 在留邦人数 180人(2006年10月現在)

6.要人往来

(1) 往訪(1995年以降)

年月	要人名
1995年1月	木部日本・アラブ友好議連会長 皇太子・同妃両殿下
1996年1月	小淵衆議院議員
1997年7月	小杉文部大臣
1997年10月	平林内閣外政審議室長(総理特使)
1999年5月	与謝野通産相
2001年1月	河野外務大臣
2001年2月	海部元総理
2001年7月	平沼経済産業相
2003年4月	与党三幹事長(山崎自民党幹事長、 冬柴公明党幹事長、二階保守新党幹事長)
2003年12月	田中外務政務官 逢沢副大臣(総理特使)
2004年1月	小池環境大臣
2004年8月	衆議院中東諸国等事情調査議員団
2004年9月	自民党・海外派遣自衛隊激励調査団一行
2004年10月	谷川外務副大臣
2004年12月	大野防衛庁長官 武部自民党幹事長・冬柴公明党幹事長
2005年5月	福島外務大臣政務官
2005年6月	河井外務大臣政務官
2005年12月	額賀防衛庁長官
2006年1月	麻生外務大臣(特派大使)
2006年7月	額賀防衛庁長官、金田外務副大臣
2006年8月	麻生外務大臣
2006年9月	衆議院中東諸国等事情調査団
2006年12月	木村防衛庁副長官
2007年3月	小池総理補佐官
2007年4月	安倍総理大臣
2007年8月	衆議院テロ・イラク特委公式派遣団

(2) 来訪(1995年以降)

年月	要人名
1995年10月	ジャービル首長(公式実務訪問)
1996年4月	リファイ最高裁長官
1998年10月	サバーハ第一副首相兼外相、 ムーサ計画相兼行政開発担当国務相
2001年5月	アハマド情報相
2001年9月	クウェート・日友好議連
2001年12月	アイヤール社会労働相兼水電気相
2002年1月	ホールシード商工相
2002年4月	アハマド通信相
2002年9月	アハマド情報相兼石油相代行
2002年11月	ムハンマド外務担当国務相
2004年7月	サバーハ首相(公式実務賓客)ムハンマド外相、 アハマド・エネルギー相、タウィール商工相
2004年11月	ジャービル副首相兼国防相(外務省賓客)
2005年6月	シェイハ・フッサ・アル・サバーハ歴史博物館館長
2006年8月	ムハンマド首長府顧問(政府特使)
2006年9月	シャッティ副首相兼閣議担当相
2007年8月	サーレム首相府顧問(政府特使)

6.二国間条約・取極

航空協定(1962年12月)、  
司法共助取極(1967年12月)

7.外交使節

- (1) 大木正充特命全権大使
- (2) ハーリド・アル・ムタイリ臨時代理大使